

項番	内容	回答
1	本学はGakuNinRDM(GRDM)→JAIROCloud (JC) 連携の先行利用機関となりました。RDMからのデータは、JCにはどのアイテムタイプに登録されるのでしょうか？「デフォルトアイテムタイプ（フル）」でしょうか？本学では、現在のリポジトリでは研究データは登録していないため、研究データのアイテムタイプを用意していません。新たに登録用のアイテムタイプのテンプレートを用意し、マッピング設定する必要がありますか？	「デフォルトアイテムタイプ（フル）」を想定しております。
2	GRDM→JCで学認のアカウント認証が導入されるとのことですが、JC側のユーザロール権限はJC管理者側で事前に設定できるものでしょうか？また、JC側で個別にユーザー登録する手間はかけたくないため、学認で認証できるようになる時期を明示いただけますでしょうか。	JAIRO Cloud側のユーザロールは事前に設定されます。学認への対応は即時OA周りの機能リリースを行う2025年度後半を目指して開発を進めております。
3	p9、3) 論文本体と根拠データが同一のランディングページにて「送出無」との記述がありますが、どのようなパターンをイメージしているのでしょうか？送出無が何を指しているのかわかりませんでした。	当該スライド資料における「送出無」とは、何等かの理由で論文本体と根拠データ（図表等）が公開できない際（※）に、メタデータ情報のみを送出・公開するケースを意図しておりました。 ※論文本体と根拠データ（図表等）に、エンバーゴがかかっている、外部サイトに置いてありJAIRO CloudにはそのURLを記載する、など 論文と研究データの送出タイミングとファイルデータの送出有無を混ぜて表現したため、わかりにくい表現となっており申し訳ありません。
4	p13、IR管理者が、GakuNinのグループ単位に含まれるユーザも承認できるようにする、というご説明があったように思います。ここでいうGakuNinとは、RDM内のプロジェクト単位を指していますか？それとも、学認（学術認証フェデレーション）のことを指していますか？	現時点では学認フェデレーションのグループ（mAPIにより定義されるグループ）を指しています。現在、GakuNin RDMはmAPIに対応しておりません。 GakuNin mAPマニュアル https://meatwiki.nii.ac.jp/confluence/display/gakuninmappublic
5	p14にて、研究者が削除フローを承認すれば研究者自身からの削除処理が可能になる、という説明ですが、ということは研究者自身がWEKOへログインし、編集作業も可能になるということでしょうか。	機関の運用方針によりますが、今後ワークフローを導入した際には、一般の研究者は削除フローの承認者となることは想定しておりません。現状においては、JAIRO Cloudの権限と与えられた研究者自身が編集・削除することは可能です
6	p14にて、研究者自身でリポジトリ編集、承認まで可能となるイメージであるなら、本来は公開してはいけない非公開状態であるべき編集中心アイテムを、誤って公開してしまう、というエラーも起きうと思います。特にエンバーゴ設定など。そのような致命的エラーを避けるためには、研究者には承認の機能を持たせない、という運用でしか回避できないのでしょうか。	機関の運用方針によりますが、現時点では研究者が承認するという運用を採用される機関様は少ないと考えています。承認者は機関リポジトリの管理者である想定です。
7	エンバーゴがかかっている場合、アクセス権については、「embargoed access」で登録しエンバーゴ明けに「open access」にしないといけないなど、メタデータとファイル登録の間で作業の時期がずれる場合があります。公開日を未来日付にしているアイテムは、公開日が来てもメタデータの datastamp が更新されずハーベスト対象から漏れるため、ハーベストさせるために、タイムスタンプを更新させる作業が発生するなど、うまくハーベストされないケースが多数発生することが想定されます。	当該メタデータの扱いについては検討していきますが、現時点ではずれは生じるものと考えています。
8	現在、WEKOにはエラー対応のため数々の機能制限があります。WEBブラウザの「戻る」ボタンの使用や複数タブでの操作は禁止、などです。 これらは研究者自身がWEKOを操作するとして、そこまでエラーや行ってはいけない操作制限などは解消される見込みでしょうか？ 現行リポジトリ担当である図書館職員が操作を行っていても、禁止操作を常に意識して操作することは難しく、注意が必要な作業となりますが、そうしたことを研究者へ認識させて実行していただくことはまず無理なのではないかと思います。	戻るボタンや複数タブの入力は意図しない入力を防ぐための機能となります。最後の書き込み優先とする考えもありますが、現時点では不向きと考えています。ご要望があれば仕様変更を検討致します。一方で研究者による登録については、現状の登録画面よりもよりシンプルなものを提供することを検討しています。
9	現在リポジトリ登録作業時に発生したエラーに対して、機関側では対処できないものも多くあるかと思います。それに対してJAIRO Cloud事務局様が1点ずつご対応されていますがGakuNin RDM連携に伴い生じたリポジトリエラーについても、今後同様の運用となるのでしょうか。	機関側で対応が困難なものはシステム側で対応を検討する予定です。

10	一度削除（取り下げた）DOIやハンドルや再付与できないかと思いますが、研究者がついうっかり、として削除など操作してしまうことは十分あり得ると思いますが再度同一のDOIを付与して登録したい、といった要望は必ず出ると思います。 （投稿論文承認のために、先にDOIを付与したデータ登録が必要なため、リポジトリ登録作業実施、その後論文がアクセプトされた後、うっかり削除してしまうなど。）DOI等の取り扱いには注意が必要ですが、その辺のエラーをセルフアーカイブ時に回避できるような機能や運用は想定されていますか？	ご指摘のようなケースも想定しており、関係者で検討してまいります。
11	JAIRO Cloudの「研究者用ワークスペース」機能等の新機能のリリースは「来年」、「来年度」のどちらの予定でしょうか？ セミナー終了後に機関内で話をしたところリリース時期についての各人のメモが「来年(2026年)」と「来年度(2025年)」に分かれていたために確認させていただく次第です。	2025年度後半を目指して開発を進めております。
12	P9：論文と根拠データの各登録パターンに対応 ・必須と任意について 1、2、3はそれぞれ、必須、任意、任意となっていますが1は必ずあるが2、3は無い場合もある、という意図で仕様を設計されているということでしょうか？（2で前送出した場合、1は出来ていないかと思いますが最終的に1もできる想定で、1を必須としているということでしょうか？）必須と任意の意味の違いをご教示ください。	OA加速化事業での収集対象が、公的資金の研究における査読付論文の著者最終稿（以下、論文本体）とその根拠データとなっています。論文本体は必須ですが、論文によっては根拠データがない場合もあるため任意としています。論文投稿前に根拠データだけを先にリポジトリに公開するケースは考えられるため、その場合は別途、論文本体を登録しDOI等で相互参照できる様に相互を紐付ける必要があります。JAIRO Cloudで論文本体と根拠データを個別に登録しないと、CiNii Researchに根拠データのメタデータが流通せず、研究データとしては検索対象になりません。
13	P9：論文と根拠データの各登録パターンに対応 ・3の送出無について 「送出無」とはGakuNin RDMだけに論文と根拠データがありJAIRO Cloudにはランディングページは無いということでしょうか？ 「送出無」とはどういう想定かをご教示ください。	当該スライド資料における「送出無」とは、何等かの理由で論文本体と根拠データ（図表等）が公開できない際（※）に、メタデータ情報のみを送出・公開するケースを意図しておりました。 ※論文本体と根拠データ（図表等）に、エンバーゴがかかっている、外部サイトに置いてありJAIRO CloudにはそのURLを記載する、など 論文と研究データの送出タイミングとファイルデータの送出有無を混ぜて表現したため、わかりにくい表現となっており申し訳ありません。
14	P13：GW連携にワークフロー機能を追加GW連携とはなんのことでしょうか？	「GakuNin RDMとJAIRO Cloudの連携機能」の開発中の名称を「GW（GakuNin RDM－WEKO）連携」と内部で呼んでおり、その表現が、資料中に残っておりました。以後、資料に記載する用語に留意いたします。
15	P13、P14 IR管理者について 「ガクニンのグループ管理機能も使えるようにしたい」といったご説明があったかと思います。 「ガクニンのグループ管理機能」とは、GakuNin RDMの機能でしょうか？それとも学認認証の機能でしょうか？	ここでの「ガクニンのグループ管理機能」とはGakuNin mAPとなります。 GakuNin mAPマニュアル https://meatwiki.nii.ac.jp/confluence/display/gakuninmappublic
16	ストレージ特に拡張ストレージの扱いが如何になるのか？	GakuNin RDMのJAIRO Cloud連携機能では、拡張ストレージに保存したデータをJAIRO Cloudを通じた公開が可能です。
17	WEKO3側のワークフローとユーザRoleの定義でRDMとWEKO3側の権限認可の整合性の件が判らない。	GakuNin RDMからの利用は基本的にJAIRO Cloudでの教員権限での利用を想定しております。
18	グループ認証等の話もある。Orthrosが陽に出てくるのであれば、これをきちんと定義する様にして欲しい。認可等の設定で混乱を招く。	ご指摘のケースについては関係者間で調整を進めてまいります。
19	(4)YNUか慶応の質問だと思うがツリーのメンテナンスを各部署にやらせる場合、コミュニティでグループ化をする必要があるが、この運用が見えない。 これらについては更新資料の確認の上で、Q&A、ソリューションを得たい。	コミュニティ機能のリリースについては十分な検討を行った上での提供を考えております。情報を整理の上、利用方法の提案をしてまいります。
20	ご説明のあったRDM→リポジトリの連携フローの中で、著作権ポリシーの確認はいつ、誰がする想定になっているのでしょうか？	「RDM→リポジトリの連携フロー」では、研究者が登録する際に確認、また、機関リポジトリ側でも再度確認となることを想定しております。

21	「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」におけるメタデータ共通項目15項目に関して、イメージ動画では、GakuninRDM側はのメタデータ項目は共通15項目の名称で表示されていたようですが、JAIROCloud側に連携した時のメタデータ項目名は異なるものもあるように見受けられました。（見間違えていたらすみません。）連携先の項目は決まっているのでしょうか。それが分かる表などがあったりしますか。	「デフォルトアイテムタイプ（フル）」を想定しております。連携時のマッピング（どの項目に値が入るか）は、「メタデータ流通ガイドライン：研究データ編」にある「メタデータ共通項目」と「JPCOARスキーマ」とのマッピングをご参照ください。 メタデータ流通ガイドライン：研究データ編 https://ndlsearch.ndl.go.jp/guideline/researchdata
22	GakuNin RDMからJAIRO Cloudへの研究データの連携機能について、JAIRO Cloud側からGakuNin RDMへ研究データを取りに行く、操作するのは図書館側かと思っていましたが、そうではなく、GakuNin RDM側で研究者自身が操作する、JAIRO Cloud側は操作不要で研究データが届くのを待つだけ、との認識で間違いないでしょうか。	GakuNin RDMのJAIRO Cloud連携機能は、研究者のセルフアーカイブを想定しており、GakuNin RDM側で研究者自身がデータ登録操作を行い、図書館員はJAIRO Cloud側で受け取ったデータの確認・修正・公開作業を行うフローになります。
23	Gakunin RDM に登録された研究データを JAIRO Cloud で公開とした場合、研究データは JAIRO Cloud にアップロードされるのでしょうか。	GakuNin RDMのJAIRO Cloud連携機能で登録作業を行った際、研究データのファイルはJAIRO Cloudへ複製されアップロードされます。
24	教員がJAIRO Cloudに研究室単位でページを持ち、そこにアップできるようになるというのは、一般的な機関リポジトリとの運用とはかなり異なり、現実的に運用は難しいと感じる。学部・研究科では研究室という単位でない別の単位でグループを形成しているが、それらについてどのように対応できるのかも不明であった。 教員が退職した場合も考慮されていないようなので、採用・転入出・退職（研究室の後任がいる場合/いない場合）など、教員の着任から退職後も含めた全体的なライフサイクルで再考を願いたい。	他機関へのデータ移管、教員によるデータバックアップなど、機関の研究データポリシーに準ずる運用が可能な様にライフサイクルを改善してまいります。
25	ePPNで連携することを想定されているようでしたが、ePPNはその利用者が機関を離れて24ヶ月経った場合、別の利用者が再利用して良いことになっている（学認技術運用基準 8.2）。つまり24ヶ月以上口グインされていない場合、紐付けを解除しなければ情報漏洩に繋がる恐れが出てくる。全ての利用者に24ヶ月以内の再口グインの必須化は現実的ではないと思われるので、実現方法等をご検討いただきたい。	ユーザや組織のライフサイクルをどのように取り扱うかを、再検討して改修してまいります。